

(熊本県立御船高等) 学校 令和 5 年度 (2023 年度) 学校評価表

<p>1 学校教育目標</p> <p>熊本県教育振興基本計画と本校建学の精神である三綱領「誠実以て人に接す」「自ら進んで学を修む」「自律以て己を処す」に則り、「認め、ほめ、励まし、伸ばす」の教育行動指標を踏まえ、『生きる力』の育成を図る。全職員による「参画と協働」の指導体制のもと、小・中・高・大の連携及び家庭・地域社会との連帯を図るとともに、特色ある学校づくりに努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 主体性とリーダーシップ ○ チャレンジ精神とあきらめない心 ○ 思いやりと感謝の心
--

<p>2 本年度の重点目標</p> <p>「感性と技と志」が育つ御船高校</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 主体的に学ぶ力の育成 ○ 体験に基づいた学習と探究学習の実践 ○ 社会的・職業的自立に必要な能力育成とキャリア教育の充実 ○ 自尊感情と船高生としてのプライドの醸成 ○ 健康・安全教育の徹底
--

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果 (○) と課題 (●)
大項目	小項目					
学校経営	特色ある学校づくり	各学科・コースの魅力発信の工夫	○本校ならではの取組や最新情報を中学生や地域、企業等に広く周知する。	・県立高校魅力化きらめきプランによるプロフェッショナルハイスクール及びOne Teamを実施する。 ・HPの更新や学校パンフレットの作成等をおし学校のPR活動の充実を図る。	A	○プロフェッショナルハイスクール及びOne Teamを7回実施し、本校の取組を広く周知することができた。 ○HPの更新回数を増加させた結果、アクセス数は、1日平均で昨年度の87回から、今年度は111回と28%増となった。HPの更新回数の増加に加え、学校全体のパンフレットと電子機械科独自のパンフレットを作成し、PR活動を充実させることができた。 ○マイコン制御部、書道部が全国大会出場した他、吹奏楽部が目覚ましい活躍をした。
	生徒募集の具現化	生徒募集の取組の推進	○普通科3クラスの入学者数充足率を昨年度比5%増加させる。	・中学生体験入学における学科・コース別の説明・体験の内容を充実する。 ・学校行事・個別相談会等のポスター等による広報活動の充実を図る。	A	○中学生体験入学を、午前午後の2部構成で実施したことで、内容の充実を図ることができた。また、学校説明会やコミスク等、昨年度以上に能動的かつ生徒主体による広報活動を展開することができた。 ○ポスターやパンフレットなど昨年度以上に内容を充実させることができた。 ●生徒募集に対する職員全体の意識をさらに高めることが課題である。
	業務改善・働き方改	超過勤務時間の削減	○超過勤務時間の月平均25時間以下を達成する。 ○行事の精選及び業務	・半月毎に職員が自らの超過勤務状況を確認し改善を図る。 ・労安体制に係る御船高校ル	B	○6月御船高校ルを策定し、本校の実態に即した職員の健康障害防止を図ってきた。

	革	業務の効率化	内容の見直しを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ールを策定し実施する。 部活動指針に則った活動計画の整備を行い毎月HPに公開する。 次年度の取組を視野に入れた行事要項の作成を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ●4月～12月までの超過勤務時間の月平均は27時間であった。 ○ノ残業テ-等働き方改革の取組及びそれに関連する複数の施策を実施している。 ●部活動の指針に即した活動時間での実施が不十分。
学力向上	授業改善・授業力向上	生徒全員の「わかる」「できる」を目指した授業づくり	○授業ユニバーサルデザイン化に全ての教員が取り組み、ICT機器の活用経験95%以上を達成し、授業評価のICT活用の評価値を上昇させる。	<ul style="list-style-type: none"> 授業の共通取り組み事項を設定した授業のユニバーサルデザイン化にICT活用の視点を加えた授業研究週間の実施。 ICT活用やAL型授業の研修の充実と実践促進のための支援。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○研究授業週間を2回実施し、全教科でICTを活用した研究授業及び合評会を行った。 ○ICTを活用した協働学習や観点別評価について実践的な職員研修を実施し、ICT機器の活用経験100%を達成した。 ○授業アンケートでは教師、生徒共に高い結果となった。
	学力・学習力の向上	自ら学び続け、自己更新を続けることができる力を培う学びのサイクルの実現	○授業評価における、授業規律、学習への意欲、生徒間で話し合い考える協働的な学び、自分の考えを説明するなどの言語活動などの項目について、評価値を上昇させる。	<ul style="list-style-type: none"> ICT活用による学習意欲への喚起、基礎学力の定着を図る授業展開、課題の工夫、学び直しの個別的支援を行う。 ルーブリック評価による授業目標の設定により達成感・成就感を得られるための支援を行う。 「主体的、対話的で深い学び」の視点からICTを活用した授業実践に取り組む。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒による授業アンケート全10項目の4段階評価による平均が3.51であり、特に「始まりと終わりの挨拶はチャイムどおりに行い、落ち着いて授業を受けている。」が3.80など授業規律の項目が非常に高い。 ●今後は個別最適な学びにおける「指導の個別化」の充実をいかにして進めるかが課題である。 ○教師による協働学習の項目が他と比較すると低いが、昨年度から0.23上がっている。コロナ禍の中で実施が難しかった協働学習を取り入れる授業が増えていると考えられる。
キャリア教育(進路指導)	キャリア教育の充実	進路意識の向上 体験活動の充実 進路情報の提供	<ul style="list-style-type: none"> ○進路目標の早期決定を目指す。 ○職業観・勤労観の育成を図る。 ○タイムリーな情報発信と閲覧環境の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路別の進路講座・講演会を実施する。 インターンシップや体験型イベントへの参加を促す。 オンラインを活用した資料閲覧環境の更なる改善に取り組む。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○6月に「1日進路の日」を設定し進路別の進路講座・講演会を実施できた。 ○インターンシップはすべての学科で5日間実施することができた。 ○「Handy進路指導室」(クラウドサービス)を導入し、事務負担軽減と求人票の閲覧環境を更に改善した。
	進学指導の充実	多様な進路希望実現に向けた進学支援体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○3年生卒業予定数に対し大学進学率15%を目指す。 ○共通テスト等の新大学入試への対応を講じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合型選抜、学校推薦型選抜の対応と個別指導の充実を図る。 キャリアパスポート作成支援体制の充実を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○小論文対策・面接指導・過去問対策など個別指導の充実を図ることで、私立大学に22名が合格、大学進学率16%である。(今後5名が受験) ●学期末にキャリアパスポート作成の時間を設け取り組んだが、担任任せであった。今後組織的な支援体制の充実を図っていく。
	就職指導の充実	県内企業就職率の向上 就職意欲の高揚 内定者への指導	<ul style="list-style-type: none"> ○希望就職内定率100%、県内就職率70%を目指す。 ○キャリアサポーター・しごとコーディネーターの活用推進。 ○早期離職防止策を講 	<ul style="list-style-type: none"> 適性の早期把握と事前指導の充実を図る。 企業の情報収集と県内優良企業の求人開拓を行う。 企業ガイダンス等への積極的参加を促す。 内定者へのフォローアップ 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○希望就職内定率100% ○県内企業内定率76%、就業地が県内の就職率94% ○キャリアサポーターと緊密に連携し、不調者や他の志望からの転向者への指導がスムーズにできた。内定後

			じる。	の徹底を図る。		のフォローも順調だった。
生徒指導	規範意識の醸成	基本的な生活習慣の確立と規律ある行動	○挨拶の励行と、遅刻者を昨年度の80%に減らす。 ○特別な指導の件数を昨年度の70%にする。	・全職員による登校指導を行い、挨拶や服装の指導に加え、遅刻が続く生徒へのフォローを行う。 ・家庭向けの啓発メールを利用して、家庭での見守りの強化を図り、学校と家庭の連携を強化する。	B	○登校指導を全職員で取り組んだことで、遅刻の多い生徒に対し、あらゆる場面での指導が可能となった。 ●指導件数は昨年度よりも減少(88%)したが、集団による指導が増えたため、特別な指導を受けた生徒数は7人増加した。
	交通安全意識の高揚	交通マナーの向上と交通事故・違反の減少	○自転車二重ロックを昨年の81%から90%以上にする。 ○自転車・原付通学生の重大事故を0にする。	・定期的な啓発と、駐輪場の見回りを行うことで、物を大切にすることを習慣づける。 ・交通安全に関する動画視聴や関連資料を生徒・保護者に周知することで事故防止の意識を高める。	B	●3学期に二重ロック点検を実施したが、年間を通しての定期的な啓発活動には至らなかった。 ○原付通学者への動画を使った安全教育を行い事故防止の意識を高め、重大事故は0であった。
	自主性・社会性の育成	生徒会や部活動の充実	○ボランティア活動への参加者を昨年度の150%にする。 ○学校行事の生徒会運営割合を増やし、主体性を育成する。	・ボランティア活動の情報提供をclassroomやメールで周知し、参加希望者を増やす。 ・クラスマッチや文化祭の内容について、生徒会主導で責任をもって計画立案に取り組むことで、主体性を高める。	A	○がーっぱ祭りや精霊流しが雨や台風で中止となったが、新規も含め、依頼のあったボランティアにはすべて参加することができた。 ○体育祭、龍鳳祭の企画運営だけでなく、キャンドルナイトなど新しい行事を始め生徒の主体性が高まっている。
人権教育の推進	人権意識の高揚	人権問題解決に向けた実践力を持つ生徒・職員の育成	○人権教育LHR・職員研修の充実を図るため、これまでの取り組みを見直し再構築する。	・本校以外の学校や外部機関と協力し本校職員の意識の変革をもたらしたのち、生徒の実践力の育成に取り組む。	A	○各学年や人権教育推進委員会で協議のもと、生徒の実態に沿った人権学習を行うことができた。
	命を大切にす る心の育成	自他の生命と人権を尊重する心の育成	○外部機関と連携し、生徒の心を動かす講話を選定する。 ○他者を大切に思う人権教育を実施する。	・「SNSの使い方」、「自分の長所の発見」のほか、本校生徒に必要な教材を提供し、人権教育・講話を実施する。	B	○4年ぶりに人権教育講演会の実施した他、人権教育主任の講話を定期的に行うことができた。 ●SNSトラブルを避けるために年度当初から講話等を実施する必要がある。
いじめの防止等	いじめの未然防止	他人を思いやり、いじめを許さない態度の育成	○軽いいじめや冷やかしの見過ごさないよう、傍観者教育を充実させる。	・いじめ防止の教材を活用し、具体的な事例を通して自分のこととして捉えさせる。	B	○LHRで気になる言葉を取り上げ、日頃の言葉を振り返らせた。 ●何気ないからかいやいじめが見られる。
	指導体制の確立	いじめ防止対策委員会を核とした組織的取組	○いじめ事案について組織として対応し、教育的配慮を踏まえて対応する。	・いじめが疑われる事案について、早期に丁寧な対応を行い、いじめの解消確認、再発防止を図る。	A	○心のアンケートで「いじめを見たり聞いたりした」との回答が複数上がり、防止に活かされている。
地域連携(GS等)	総合型CSを核とした地域連携	地域と連携・協働したコミュニティスクールの確立	○総合型学校運営協議会として、地域の教育資源を活用した教育活動を実践する。	・開かれた学校を実現し、学校運営に参画し評価改善できる体制を推進する。 ・地域を教材とした学習活動やキャリア教育の推進、中高大が連携した学習支援体制の構築を行う。	B	○学校評価アンケートの結果では、各項目で一定の成果があった。 ●地域とともにある学校として、協議会では学校の課題を率直に伝え、目標を共有し「分担」「連携」「協働」を適切に選択していく姿を目指したい。
特別支援教育	的確な個別の支援	基礎的環境整備と合理的配慮の提供	○生徒の困り感を見逃さず、適切な支援を行う。	・教科担当者間で生徒情報を共有し、全職員で支援の在り方を検討、実践する。	A	○保護者や教科担任からの情報をもとに巡回相談を実施し、本人や保護者への支援を行うことができた。今後更なる情報共有及び支援の充実を目指す。

環境保健	健康管理・健康教育の充実	自己管理意識の向上、心身の健康支援	○既往者の個別指導の充実を図るとともに、生徒の心身の課題の把握に努める。 ○感染症の流行を防ぐ。	・行事前健康面談の継続、健診結果・保健室来室生徒への適切な個別支援を行う。 ・健康観察の徹底、状況に応じた予防啓発。	A	○長距離走大会、修学旅行前の健康相談については予定通り実施、個別指導を行い事故防止につながられた。 ○健康観察で状況把握し、大きな流行はなかった。
	環境整備	環境衛生・エコ実践向上、安全管理	○環境美化、ISOの意識化、行動化を図る。 ○事故防止、安全管理の徹底を推進する。	・美化コンクールの採点方法を改善し、エコへの呼びかけを行う。 ・安全点検を徹底し、周囲と連携した早期対応を行う。	B	●採点方法を改善し、公平な採点ができたが、エコ、掃除指導の徹底には至らなかった。 ○安全点検の事後措置を関係先と連携し適切に行った。

4 学校関係者評価

令和5年度学校運営協議会委員の皆さまからいただいたご意見は以下のとおりである。

(1) 学校のPR活動について

- ・「生徒ひとりひとりに目配り気配りがなされた教育活動が推進されている」、このことをもっと外部にアピールしてほしい。御船広報にも遠慮なく広報してほしい。また、熊本日日新聞など地方紙も活用し、中学生の受験生が多くなることを期待している。
- ・まずは、ロボコン、美術、書道、吹奏楽等など本校生の発表の場を増やすことで、学業及び部活動などの各方面における生徒の活躍による認知度の向上を期待する。
- ・御船高校は普通科の他、芸術コースや電子機械科など多彩な学びができる学校である。それぞれの特色をHPやメディア等へのプレスリリース等で積極的に情報発信してほしい。

(2) 地域との連携について

- ・地域にある学校として、地域とのつながりを大切にし、地域に信頼される学校になるとともに、生徒自身も地域に愛着と誇りを持てるような体験活動ができると良い。(例えば、町、地域団体、企業などと連携した企画提案、商品開発等)
- ・町のイベントへの参加、ボランティアでの協力をを行う。例えば、シンボルロードの整備の際や、ボランティアの方々が作業される時などに一緒に活動(花植え)を行うなど、いろいろな方々との交流を行い、高校をアピールする。
- ・町の行事等にも積極的に参加していると思う。

(3) 防災教育について

- ・今年度は「福祉・防災教育」においてご協力いただきありがとうございました。今後も貴校の年間計画に取り入れていただき、貴校と連携し、「福祉・防災教育」を実施したい。

5 総合評価

学校評価における評価項目全19項目のうち、「よくできている」とするA評価は11項目、「だいたいできている」とするB評価が8項目であった。前年度の反省から今年度の課題を設定することで、各校務分掌が積極的に学校運営に取り組むことができた。学校評価アンケート(以下、アンケート)を踏まえた結果は以下のとおりである。

(1) 学力向上と基礎学力の充実

アンケート(職員)の「あなたは、教材を工夫し、わかりやすい授業づくりに努めていますか。」の項目では評価(4段階)が3.4と前年度よりも0.2上昇している。また、アンケート(生徒)の「本校は、学力向上のためにわかりやすい授業づくりに努めていると思いますか。」の項目では3.2と前年度よりも評価が上昇している。しかし、アンケート(保護者)の「子どもさんは、授業や家庭学習など、学力向上に努力していると思いますか。」の項目では2.8と過去3年間同じ数値で推移している。

(2) キャリア教育の充実

生徒の進路希望に応じた講演会を実施したり、外部機関の講座を活用したりすることで、生徒のニーズに応じた進路指導を進めることができた。アンケート(生徒・保護者)の「本校はあなたの進路実現のために適切な指導を行っていると思いますか。」の項目では評価3.3と3.1で前年度同様である。学科間を比較すると、進学を中心としたクラスの評価が高かった。

(3) 教育の情報化推進

ICT教育研究部が実施した授業アンケート(職員)の「ICT(プロジェクターやパソコン等の使用)を積極的に活用している。」の項目では、評価(4段階)が3.51と高い。ICT活用に関する職員研修を年2回実施したことで、職員のICT教育に取り組むことへの意識が高まり、活用スキルが向上した結果と考える。また、朝からの生徒への連絡を教室プロジェクターへの一斉投影で行ったり、会議資料をGoogleクラスルームで配付したりする等校務の効率化を進めることができた。

(4) 地域との連携強化

コロナが明け、多くの生徒が地域のボランティア活動に参加し、地域貢献することができた。アンケート(保護者)の「本校は、家庭や地域との連携・協力ができていると思いますか。」の項目でも3.2となり、コロナ禍であった3年間から大幅に上昇した。職員においても同様の結果であった。しかし、外部評価ではより一層の連携が望まれている。

(5) 個に応じた指導と支援の充実

担任や生徒保護者から積極的に情報収集することで、SCやSSWを活用した継続的な支援を行うことができた。また、必要に応じて巡回相談も活用し、保護者に寄り添った支援ができた。

(6) 職員の健康管理と事故・不祥事防止

今年度からアンケート(職員)に、「本校は、教職員が仕事と家庭生活を両立させて働くことのできる職場づくりに取り組んでいると思いますか。」の項目を設けた。初年度の評価は3.0であった。また、年間15日以上の子休を取得している職員は約半数であった。

6 次年度への課題・改善方策

(1) 学力向上と基礎学力の充実

今後は更なる授業の充実を図るとともに、ICT活用をより一層充実させることで生徒の個別最適な学びを実現していく。

(2) キャリア教育の充実

生徒とのきめ細やかな面談、キャリアコーディネーターの積極的活用を進めることで、生徒の早期の目標設定を可能とし、組織的な支援を行っていく。

(3) 教育の情報化推進

アンケート(生徒)の「ICT(プロジェクターやパソコン等の使用)により興味関心が高まった。」の項目の評価が高くなるよう、研修の充実を図る。

(4) 地域との連携強化

「総合的な探究の時間」の充実を図る中で、地域連携を進めるとともに、ボランティアに参加する生徒の層を広げていく。

(5) 個に応じた指導と支援の充実

今後さらに組織的な対応を充実させるために、校内支援体制の見直しを行う。

(6) 職員の健康管理と事故・不祥事防止

ICTを活用した業務の効率化を進めることで、年休取得率6割を目指す。